

# 分 析 編

児 童 ・ 生 徒

保 護 者

学級担任（副担任）

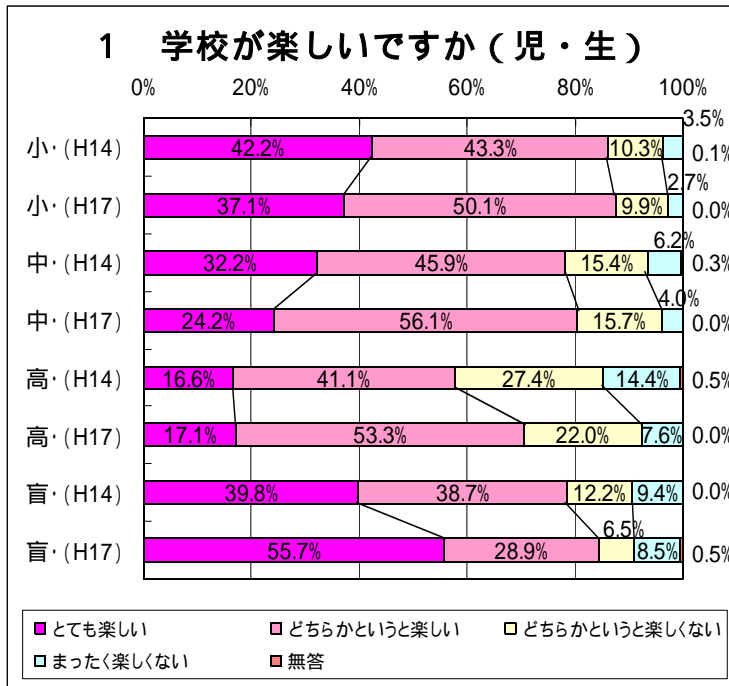
# 1 学校の楽しさ

児童生徒 1 学校に来るのが楽しいですか

小・中・高・盲聾養

⇒ 小、中、盲聾養の約8割が「楽しい」

Q1・Q1・Q1・ 1



全体的な傾向として、肯定的な回答は、どの校種でも増加し、小学生、中学生、盲聾養生徒は8割を超え、高校生は7割を占めている。

「とても楽しい」という回答は、小学生、中学生ともに減少しているが、高校生は前回と同程度、盲聾養生徒は大きく増加している。

中学生の2割、高校生の3割が否定的な回答を示している。

どの校種においても、おおむね児童生徒が「学校が楽しい」と感じるような教育活動が行われていることがうかがえる。高校を中心に児童生徒が、学校が楽しいと感じるような手だてを更に工夫していく必要がある。

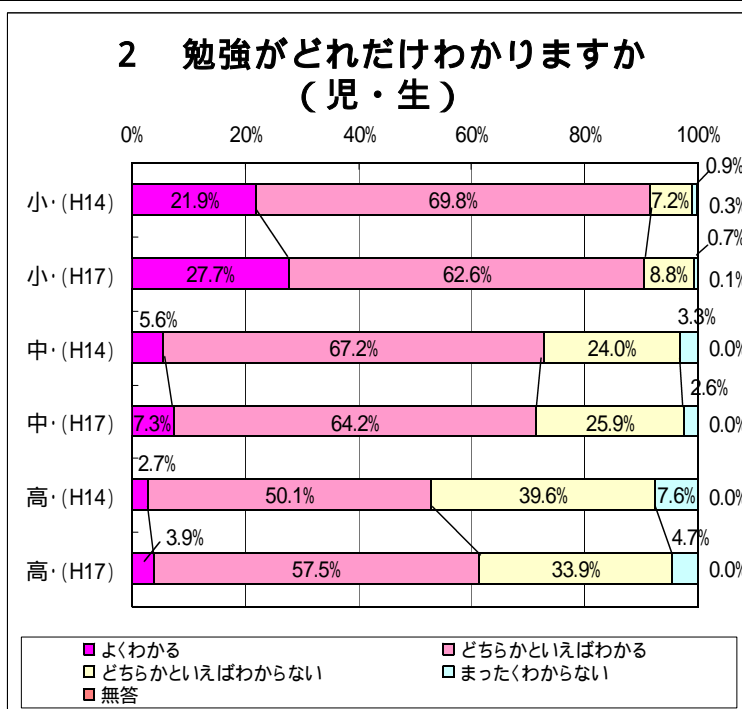
# 2 学習内容の理解

児童生徒 2 授業中に勉強したことがどれだけわかりますか

小・中・高

⇒ 理解度が小9割、中7割、高6割

Q2・Q2・Q2



全体的な傾向として、肯定的な回答は、小学生で9割、中学生で7割、高校生で6割程度を占める。

「よくわかる」という回答の割合は、小学生でやや増加し3割近くみられるが、中学生、高校生は、1割に満たない。

「まったくわからない」という強い否定的な回答は、中学生、高校生とも減少傾向にある。

学習の理解度について、小学生、中学生は前回と大きな変化はみられないが、高校生において肯定的な回答が伸びている。今後もわかる授業の充実が求められる。

【参考】担任2、担任3 -

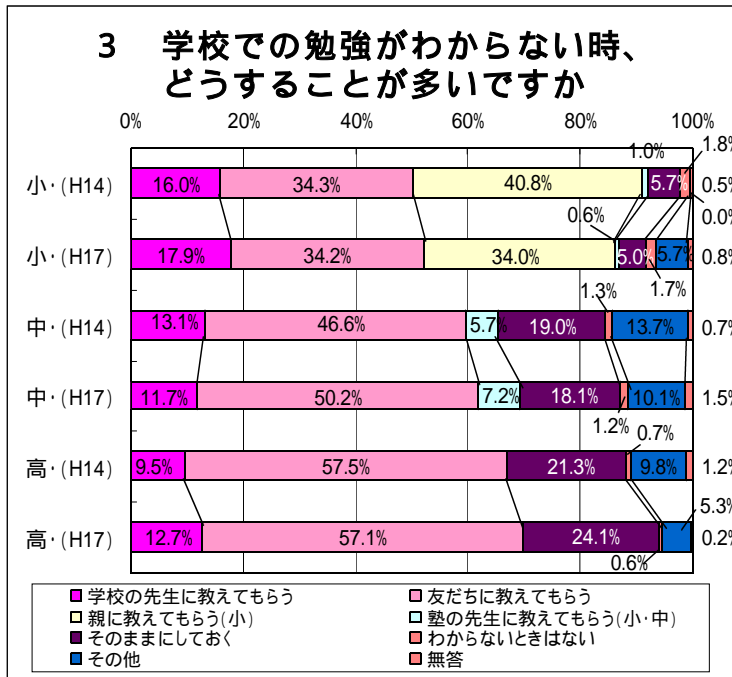
### 3 学習内容がわからないとき

児童生徒 3 学校での勉強がわからないとき、どうすることが多いですか

小・中・高

⇒ 中学生、高校生の約2割が「そのまま」

Q3・Q3・Q3



小学生では、前回より「親」の割合が減少しているが、「友だち」という回答とともに大きな割合を占める。中学生、高校生の半数以上が「友だち」と回答している。

「そのままにしておく」という回答は、中学生で2割弱、高校生で2割を超えている。

「解決の手だてをもっているかどうか」という視点でみると、小学生の9割はもっているが、中学生、高校生は7割弱である。「先生」或いは「友だち」というように、学校で解決する傾向がみられるようになってきている。「そのまま」の生徒への早急な対応が求められる。

【参考】保護者3 - 、担任2

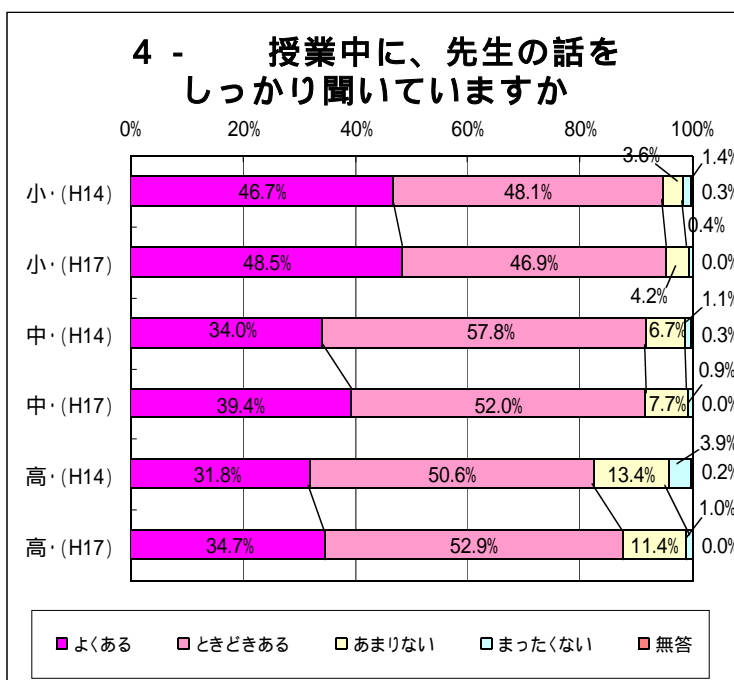
### 4 授業中に、次のようなことがどれだけありますか

児童生徒 4 - 先生の話をしっかり聞くこと

小・中・高

⇒ 小・中・高とも約9割が肯定的回答

Q4・Q4・Q4



肯定的な回答は、小学生、中学生で9割を超え、高校生でも9割近い割合となっている。

「よくある」という回答が、どの校種でも増加している。特に、小学生において、肯定的な回答の半数を占め、中学生、高校生においても伸びがみられる。

全体的に、どの校種の児童生徒も先生の話をよく聞いている実態がうかがえる。

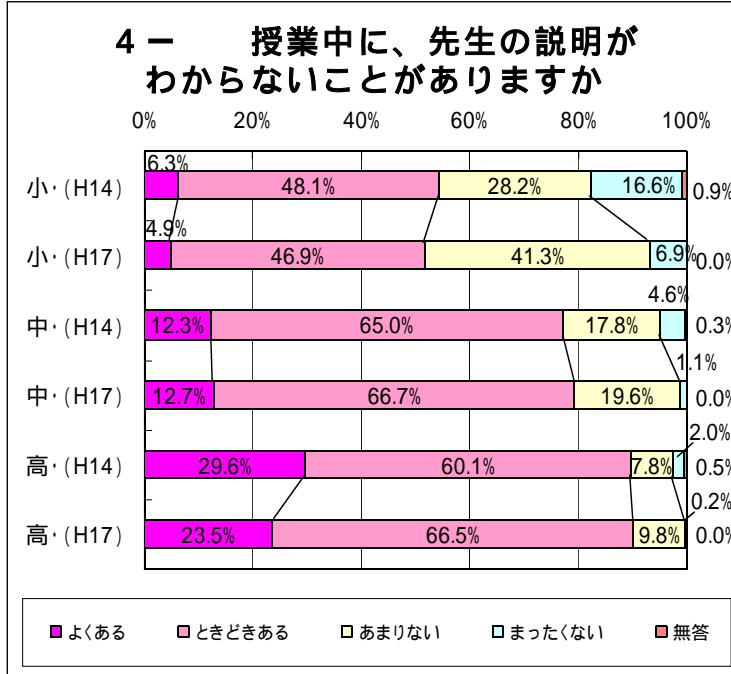
【参考】担任3 -

児童生徒 4 - 先生の説明がわからないこと

小・中・高

⇒ 高校生の9割が「わからないことがある」と回答

Q5・Q5・Q5



肯定的な回答（負の内容）が、小学生で5割（前回より微減）、中学生で8割弱（微増）、高校生で9割（同程度）と、校種が進むに従い、「先生の説明がわからない」児童生徒の割合が増加している。

好ましい傾向として、小学生で「あまりない」の増加、高校生で「よくある」の減少があげられるが、一方で、小学生の「全くない」が大きく減少し、中学生、高校生においても同様である。

特に中学校、高校において、授業中の説明が生徒に理解されるように教師は十分な配慮が必要である。

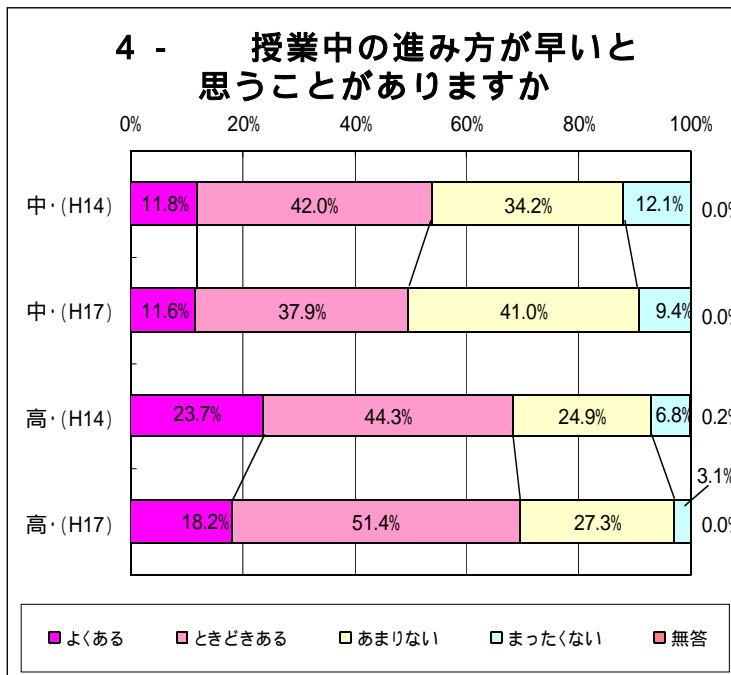
【参考】担任3 -

児童生徒 4 - 授業の進み方が早いと思うこと

中・高

⇒ 高校生の7割が肯定

Q6・Q6



中学生では、肯定的な回答が減少したものの、半数が「進み方が早い」と回答している。

高校生では、「よくある」が減少して「ときどきある」が増加している。肯定的な回答を合わせると7割近くを占めている。

中学生より高校生の方が、「進み方が早い」と感じている生徒が多い。また、「まったくない」という割合が中学生、高校生とも前回より減少していることから、特に、高校を中心に、生徒に合わせた授業の進め方の工夫が求められる。

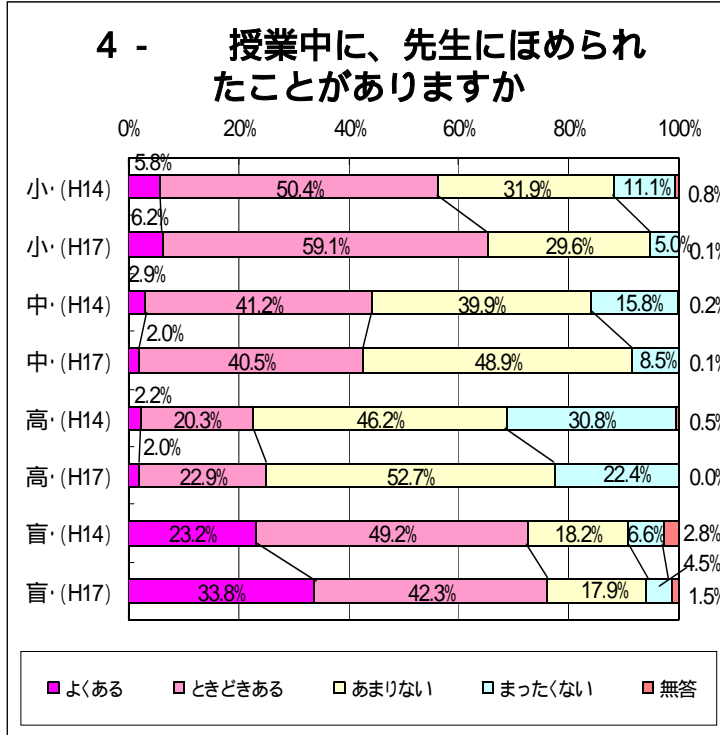
【参考】担任3 -

児童生徒 4 - 先生にほめられたこと

小・中・高・盲聾養

⇒ 小学生、盲聾養生徒に目立つ肯定的回答

Q6・Q7・Q7・2-(2)



肯定的な回答は、小学生で6割（前回より増加）、中学生で4割（微減）、高校生で2割（微増）と、校種が進むに従い減少している。盲聾養生徒は7割を超え、前回より増加傾向にある。

「よくある」という回答は、小学生、中学生、高校生とも1割に満たない非常に少ない割合である。

「全くない」という回答は、特に小学生、中学生、高校生での減少が目立っている。

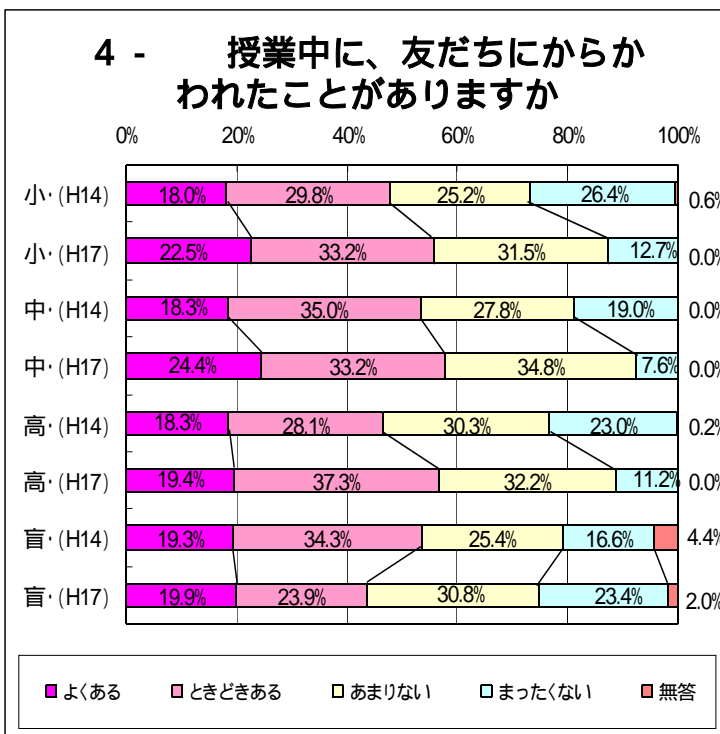
「授業中にほめられる」という経験について否定的な児童生徒が小学生で4割近く、中学生、高校生で6～8割近くいる実態がうかがえることから、教師の日常指導等における配慮が求められる。

児童生徒 4 - 友だちからかわれたこと

小・中・高・盲聾養

⇒ 小中学生・高校生の6割弱が「ある」

Q7・Q8・Q8・2-(4)



肯定的な回答が増加し、5割を超えている。盲聾養生徒では減少し、4割強である。

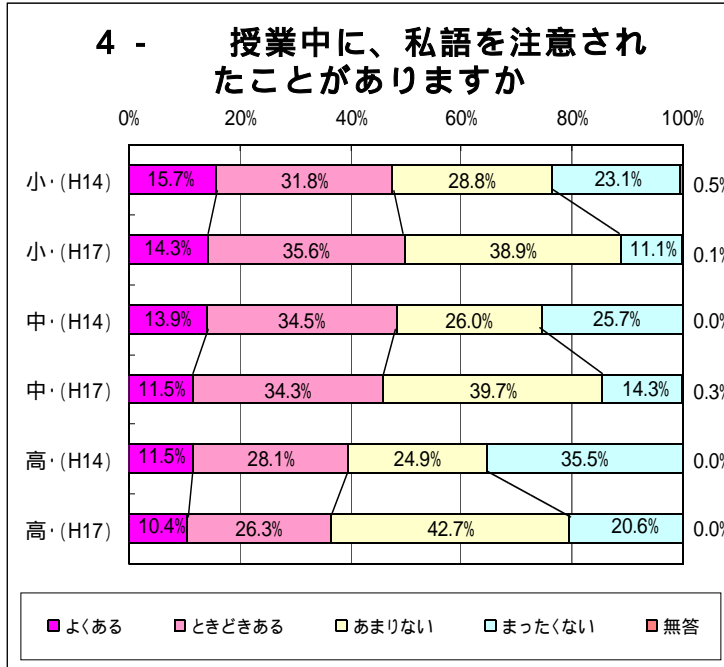
盲聾養生徒を除き、「からかわれたことがある」児童生徒が半数を占め、「まったくない」と回答した児童生徒は、前回の半分に以下に減っている。

全体的に、小学生、中学生、高校生は、各選択肢の割合及び前回との変容が、似た傾向を示している。どの校種においても、盲聾養生徒を除き、増加傾向がみられることから、授業中にとどまらず日常の指導から配慮していく必要がある。

児童生徒 4 - 私語を注意されたこと

⇒ 「あまりない」が増加傾向

小・中・高  
Q8・Q9・Q9



肯定的な回答（負の内容）の割合は、前回と大きな変化はみられない。小学生、中学生は約半数を占め、高校生も4割以下である。

どの校種とも、「まったくない」の割合が大きく減少し、「あまりない」の割合が大きく増えている。

前回より私語を注意される傾向がみられるようになってきているといえる。

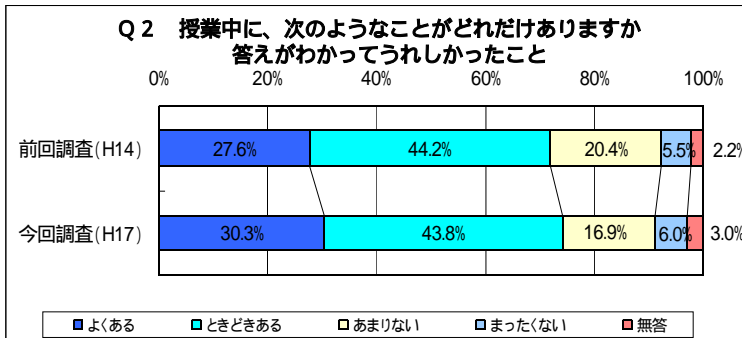
授業中の児童生徒の態度について、必要な指導の徹底を図っていく必要がある。

【参考】担任 3 -

児童生徒 4 - 答えがわかってうれしかったこと

⇒ 「ある」が7割を超える

盲聾養  
2-(1)



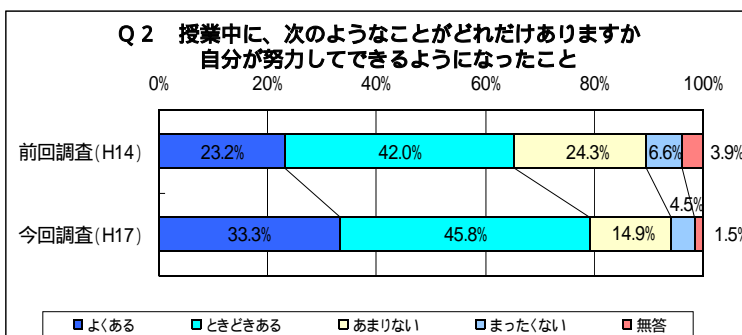
前回と大きな変化はみられない。「よくある」割合が微増傾向にあり、肯定的な回答が全体の7割を超えている。

授業者の日常の取り組みや配慮が、成果をもたらしているといえる。

児童生徒 4 - 自分で頑張って、できるようになったこと

⇒ 8割が「ある」と回答

盲聾養  
2-(3)



前回より肯定的な回答が大きく増加し8割近くを占めている。「よくある」割合も増加している。

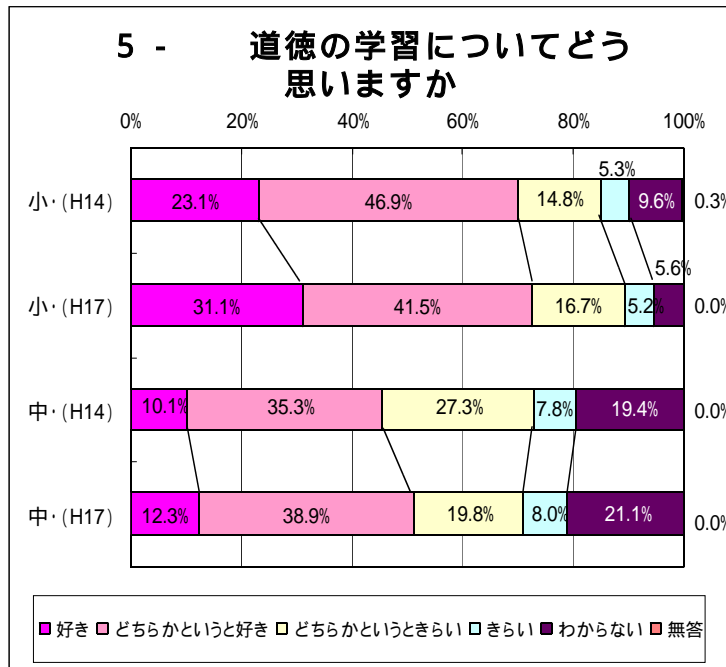
生徒が自分の努力や成果を実感したり、達成感を味わうことができるような指導を行っていることがうかがえる。

## 5 次の時間の勉強や行事について、どのように思いますか

児童生徒 5 - 道徳

⇒ 中学生は「好き」が約半数

小・中  
Q9・Q10



小学生、中学生ともに、肯定的な回答が前回より増加し、小学生で7割、中学生で5割程度みられる。「好き」という回答の割合も、小学生では3割を超え、中学生でもやや増加している。

否定的な回答の割合は、小学生では前回より少し増加しているが中学生では減少している。

中学生では「わからない」が2割を超えている。

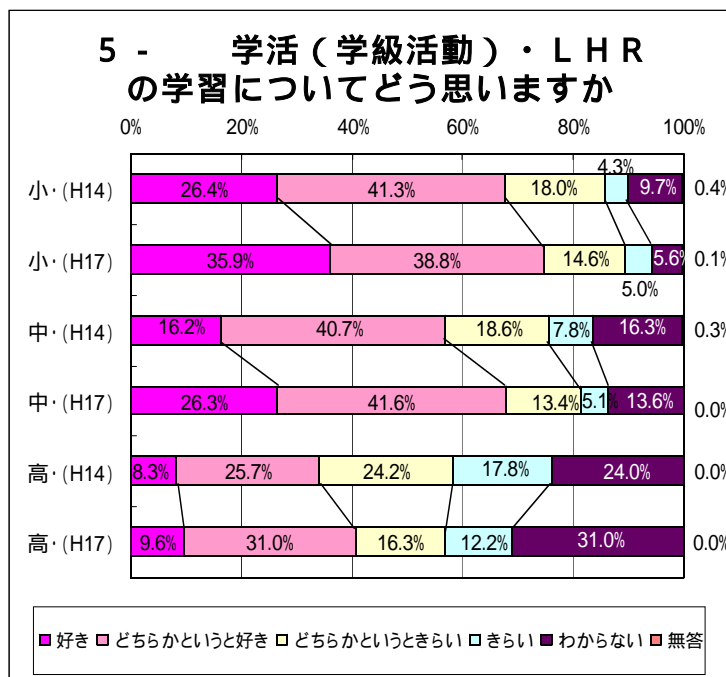
道徳の学習は、中学生になると好意的に受け止める生徒が大きく減少することがうかがえる。小学生、中学生ともに前回より増加傾向にあることから、今後の取り組みに期待したい。

【参考】担任 5 -

児童生徒 5 - 学活（学級活動）・LHR

⇒ 小学生、中学生で「好き」が増加

小・中・高  
Q10・Q11・Q10



どの校種でも、肯定的な回答が前回より増加の傾向にある。小学生で7割を超え、中学生で7割弱、高校生で4割となっている。

特に、中学生、高校生では、「嫌い」という回答の割合が減少している。

一方で、高校生で「わからない」という回答が3割を超えている。

校種が進むに従って、好意的に授業に参加する児童生徒が大きく減少する傾向は、前回と同じである。この要因について検討していくことが求められる。

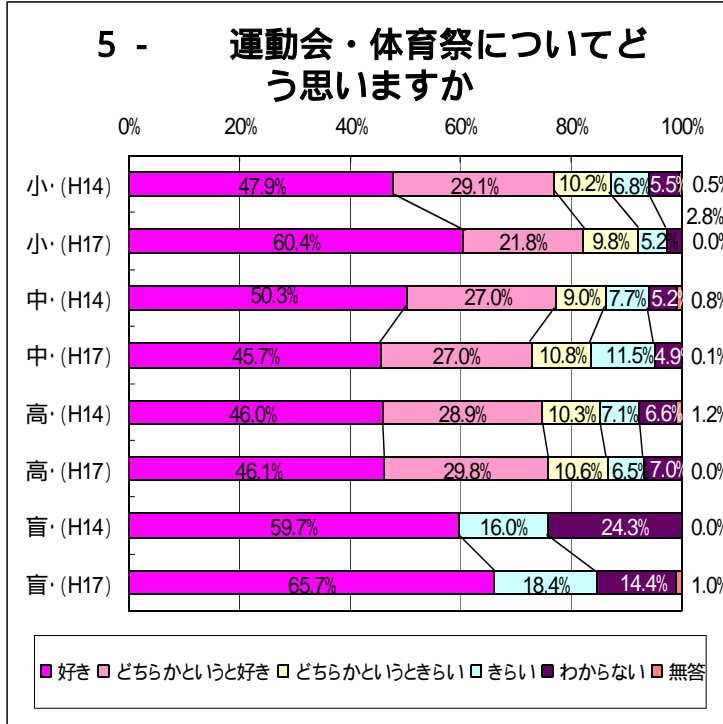
【参考】担任 5 -

児童生徒 5 - 運動会・体育祭

小・中・高・盲聾養

⇒ 小学生、盲聾養生徒で「好き」が増加

Q11・Q12・Q11・3-(1)



高校生は、前回とほぼ同じ割合であるが、中学生は、軒並み減少の傾向にあり、一方で小学生、盲聾養生徒では、増加の傾向にある。

肯定的な回答は、小学生で、8割を超えているが、中学生、高校生、盲聾養生徒では、7割前後である。

「きれい」という回答の増加は、中学生と盲聾養生徒にみられる

小学生、中学生、高校生では、各選択肢の割合がだいたい似た傾向を示している。

全体的に、体育的行事は、児童生徒におおむね好意的に受け止められているが、盲聾養生徒の割合がやや低い。生徒の状況等、難しい要因もあるが、増加傾向にあり、今後の指導を期待したい。

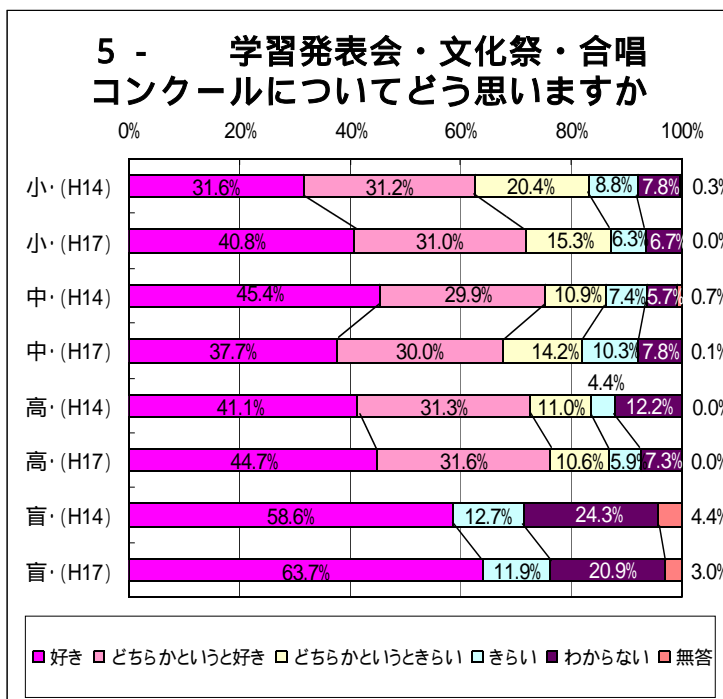
【参考】担任 5 -

児童生徒 5 - 学習発表会・文化祭・合唱コンクール

小・中・高・盲聾養

⇒ 約7割が肯定的な回答

Q12・Q13・Q12・3-(2)



肯定的な回答の減少及び否定的な回答の増加がみられるのは、中学生である。肯定的な回答が7割程度である。

小学生、高校生では、肯定的な回答が増加し、それぞれ7割を越えている。

盲聾養生徒も、肯定的な回答が増加している。

全体的に、文化的な行事は、7割程度の児童生徒に好意的に受け止められている。中学生の割合が減少傾向にあり、現在の行事の持ち方等について再検討が求められる。

【参考】担任 5 -

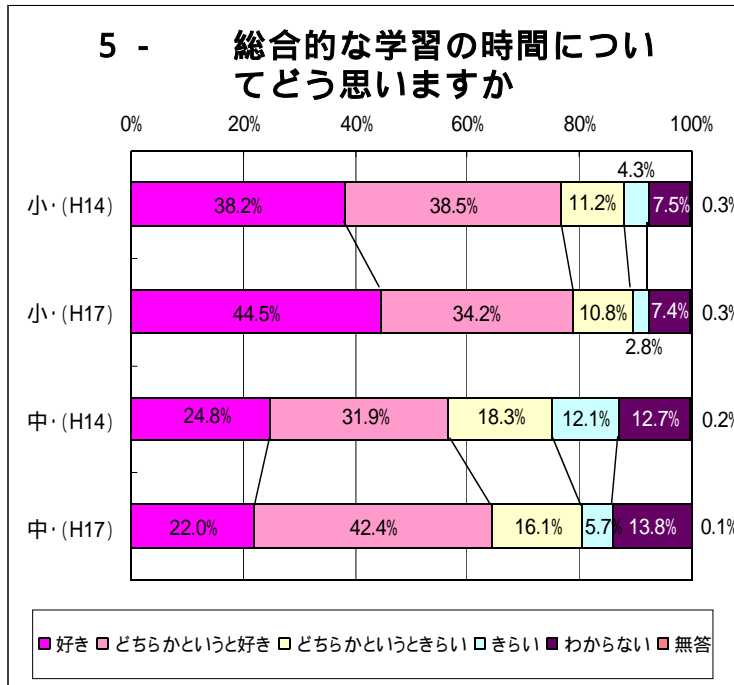


児童生徒 5 - 総合的な学習の時間

小・中

Q13・Q14

⇒ 小学生の約8割が「好き」



肯定的な回答が小学生では8割、中学生では6割を超える程度までに増加している。

小学生では、「好き」という回答が、4割を超える程度まで増加しているが、中学生では2割近くまで減少している。

また、「きらい」という回答は、中学生で大きく減少している。

全体的に、前回より肯定的な回答が増加している。一方、校種が進むと、肯定的な回答が減少するのは前回と同じであり、自ら意欲的に授業に参加する児童生徒が減少していることがうかがえる。中学生の否定的な回答の割合が減少していることから、もう一歩、指導上の工夫・配慮等を期待したい。

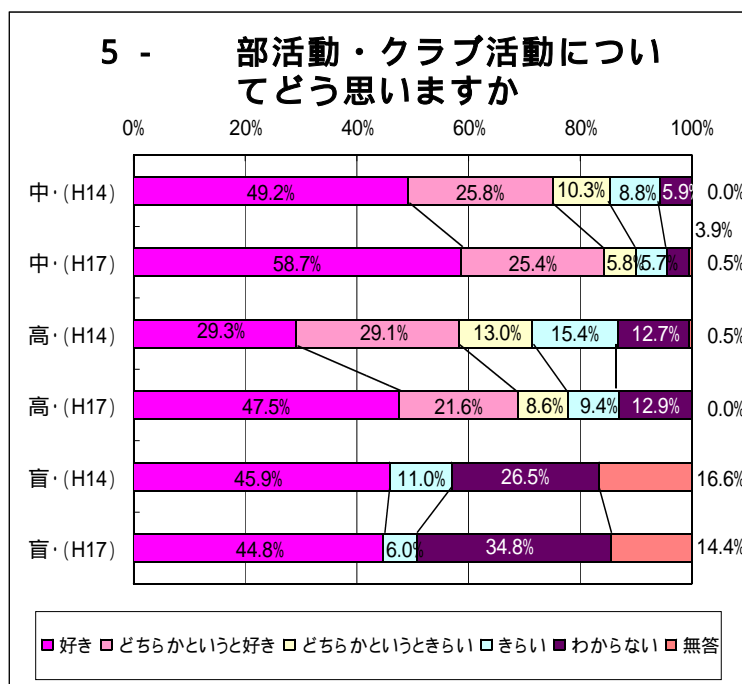
【参考】担任 5 -

児童生徒 5 - クラブ活動・部活動

中・高・盲聾養

Q15・Q13・3-(3)

⇒ 中学生、高校生ともに「好き」が増加



中学生、高校生ともに肯定的な回答が増加し、否定的な回答が減少している。中学生では、肯定的な回答が8割を超え、高校生でも7割を占めている。

盲聾養生徒は、肯定的な回答は前回とほぼ同じ割合で、否定的な回答が減少している。

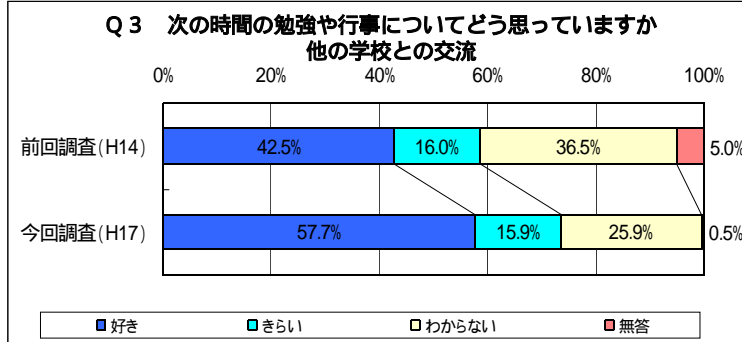
中学生、高校生と進むに従い、肯定的な割合は減少しているが、それぞれの校種において、前回より増加のよい傾向にある。生徒が目的意識をもち達成感が獲得できよう指導の工夫・配慮を期待したい。

【参考】担任 5 -

児童生徒 5 - 他校との交流

盲聾養  
3-(4)

⇒ 「好き」の割合が約6割に増加



前回と比べて「好き」の割合が増加し、6割近くになっている。その増加は、「わからない」が減少した結果となっている。

一方、「きれい」の割合にはほとんど変化がみられない。

他校との交流活動において生徒に合った内容や持ち方の工夫等により、肯定的に受け止める生徒が増加したと思われる。今後も、生徒の状況に合わせた無理のない取り組みを期待したい。

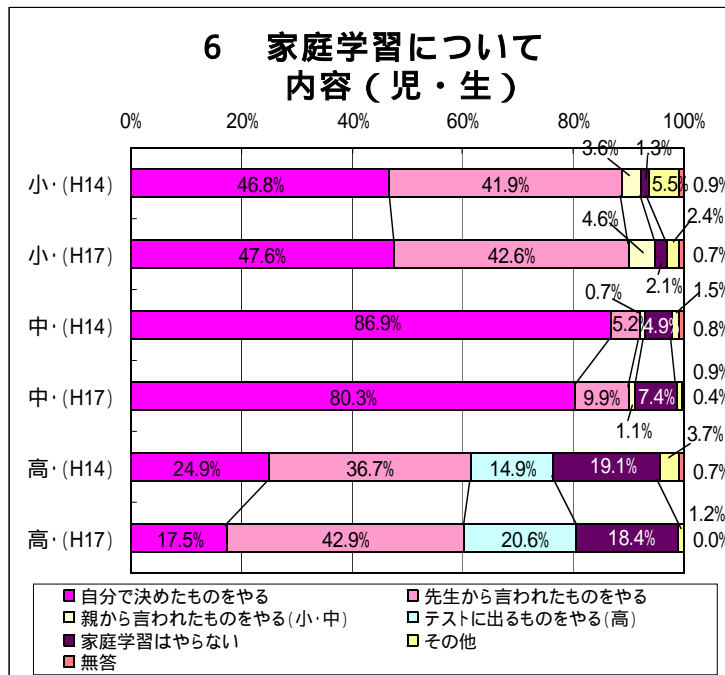
【参考】保護者 4 - 、担任 5 -

## 6 家庭学習について

児童生徒 6 - 家庭学習の内容

小・中・高  
Q14・Q16・Q14

⇒ 中学生の8割は内容を自分で決める



小学生は、「自分」「先生」がほぼ同じ割合であり、合わせて9割を占める。前回とほぼ同じ割合である。中学生は、前回よりやや減少しているが「自分」が8割を占めている。「先生」が1割程度に増えている。高校生は、「先生」が4割で一番多い。「自分」が減少する一方で、「テスト」が増加し2割を占めている。

また、高校生では、「やらない」割合が前回より少し減っているが2割近くを占めており、中学生でも増える傾向にある。

特に「テスト」「やらない」と回答した高校生について、理由や意識の実態を把握していくことが求められる。

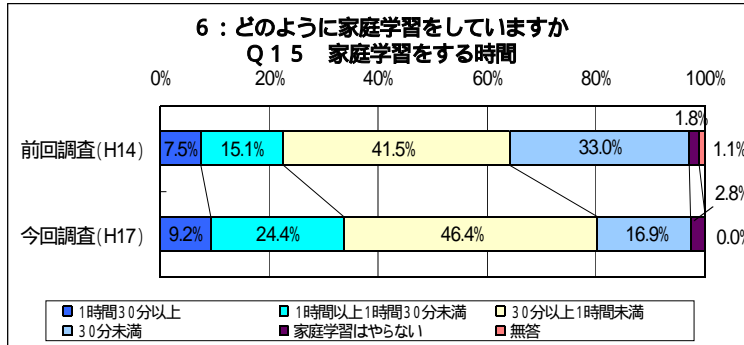
【参考】保護者 5 - 、担任 4 -

児童生徒 6 - 家庭学習の時間

⇒ 小学校：8割が30分以上の家庭学習  
 中学校：1時間以上の割合が減少  
 高等学校：1時間30分以上の割合が増加

小・中・高  
 Q15・Q17・Q15

小学校



《小学校》

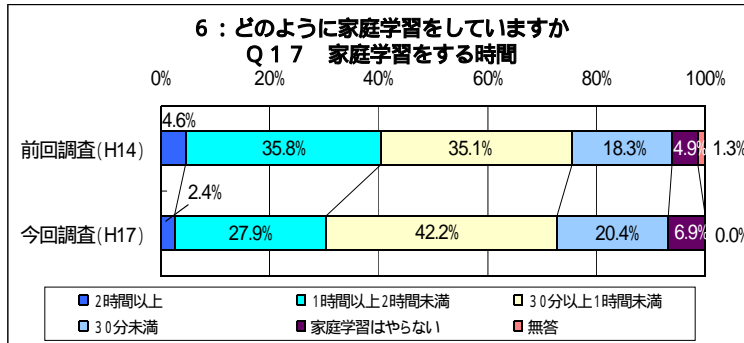
前回と比較し、学習時間が30分以上である三つの選択項目の割合がいずれも増加し、合わせると8割を超えている。「1時間以上1時間30分未満」の増加が大きい。

一方、「30分未満」の割合は、半減している。

全体的に家庭学習の時間が増加しており、家庭学習の習慣が定着しているといえる。

【参考】保護者5 - 、担任4 -  
 保護者5 -

中学校



《中学校》

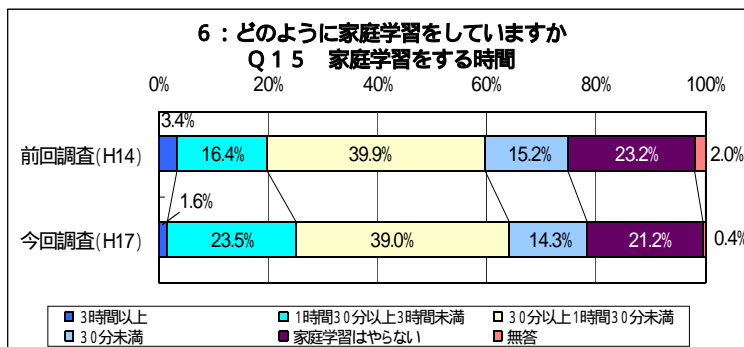
前回と比較し、学習時間が「30分以上1時間未満」の割合が増加し、「1時間以上2時間未満」「2時間以上」の割合がいずれも減少している。「30分未満」の割合は、少し増加し2割を超えている。

一方、「家庭学習はやらない」割合も増加している。

全体的に、家庭学習の時間が減少傾向にあり、「30分未満」の割合は、小学生より多い。

【参考】保護者5 - 、担任4 -  
 保護者5 -

高等学校



《高等学校》

前回と比較し、学習時間が「1時間30分以上3時間未満」の割合は増加しているが、他の項目の割合はいずれも減少している。「30分未満」の割合は、少し減少している。

また、「家庭学習はやらない」割合も減少しているが、依然2割を超えている。

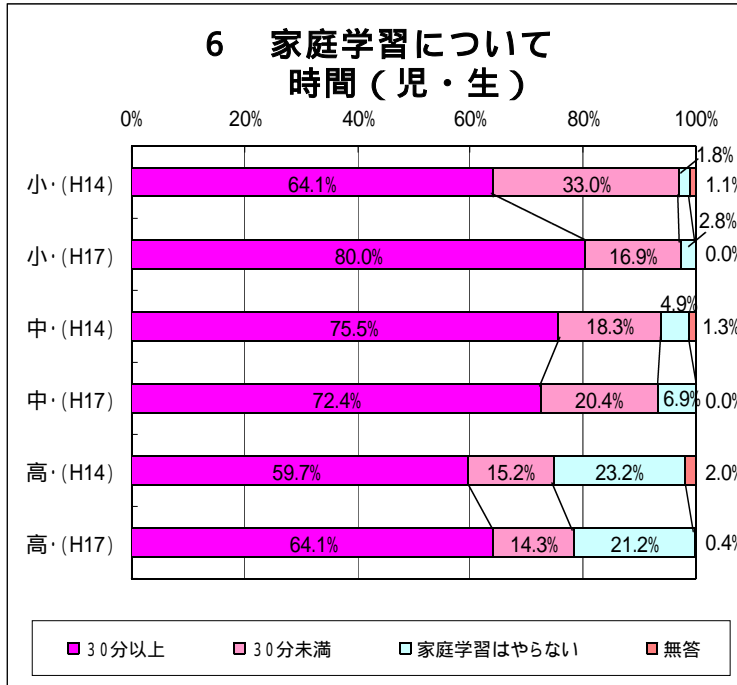
比較的長い家庭学習時間の割合が増加しているが、同程度の「やらない」生徒もあり、2極化的な傾向もうかがわれる。

【参考】保護者5 - 、担任4 -  
 保護者5 -

【参考】児童生徒 家庭学習の時間

\* 前出の「家庭学習の時間」のグラフを、「30分以上」「30分未満」の選択肢にまとめグラフ化したもの

⇒ 小、中、高と進むにつれて家庭学習の時間が減少



校種ごとに学習時間「30分以上」の割合を前回と比較してみると、小学生は大きく増加し8割に達している。中学生は、やや減少したが7割を超えている。高校生は、少し増加し6割を超えている。

一方、学習時間「30分未満」の割合は、小学生が半減して2割を下回っている。中学生は、やや増加して2割を超え、高校生は、やや減少している。

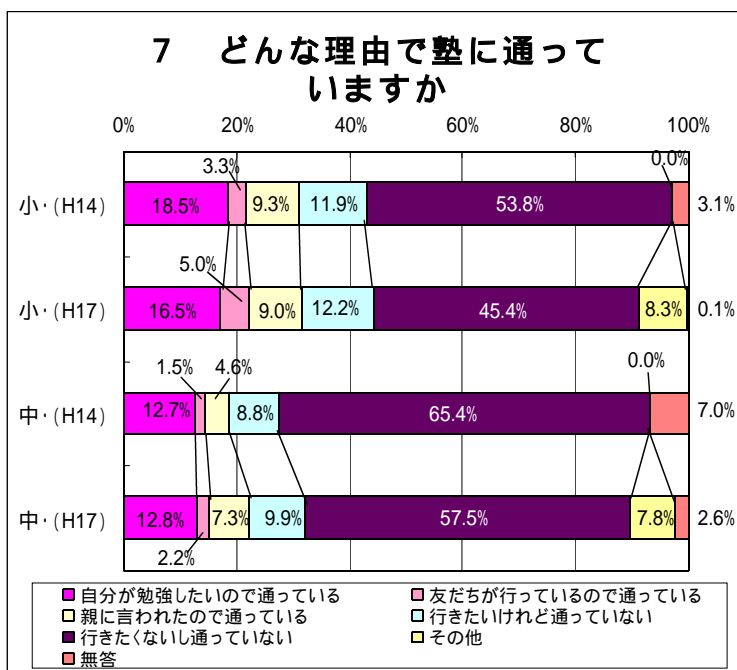
「家庭学習をしない」割合を校種で比較すると、やや減少しているが高校生が2割を超え、一番多く、次いで微増の中学生、小学生の順となっている。校種が進むにつれて、家庭学習時間が減少し、さらに家庭学習をやらない生徒が増えていることから、早急な対応が求められる。

7 塾について

児童生徒 7 どんな理由で塾に通っていますか

⇒ 「自分が勉強したい」が2割を下回る

小・中  
Q16・Q18



「行きたくないし行っていない」割合が、小学生では、少し減少しているが半数近くみられ、中学生でも減少しているが全体の6割近くを占める。

「自分が勉強したいので通っている」割合は、小学生ではやや減少し2割に満たない。中学生はほぼ同じで1割を超える程度である。

「親に言われて通う」割合は、中学生で微増傾向にあるが、小学生では前回とほぼ同じ割合である。

塾に通う児童生徒の合わせた割合には、前回と大きな変化は見られず、理由別の割合も同様である。

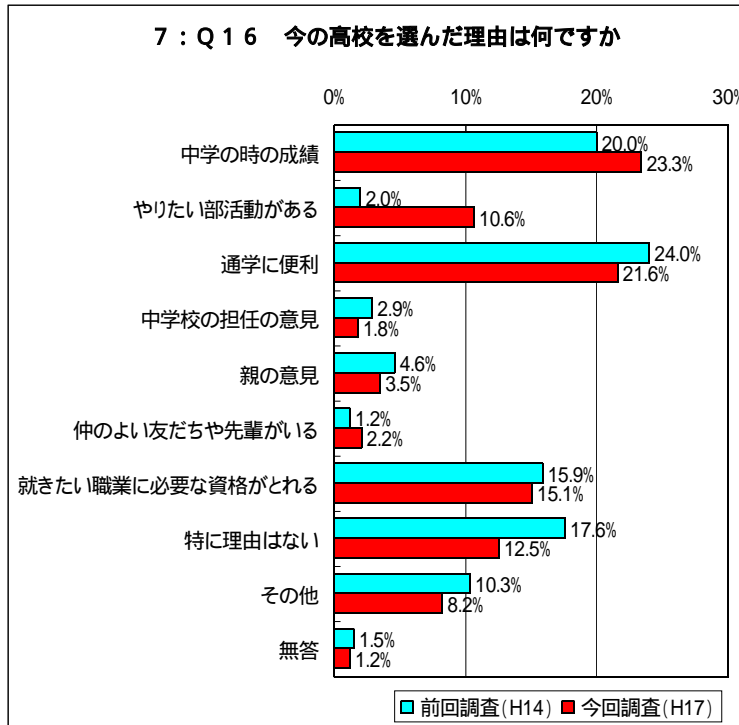
【参考】保護者 6

## 8 今、通っている高校や進路について

児童生徒 8 - 今の高校を選んだ理由は何ですか

高  
Q16

⇒ 「やりたい部活動がある」が大きな伸び



前回、高い割合を示した項目は、今回も軒並み高い割合を示している。「中学の時の成績」の割合が増え、「通学に便利」の割合が少し減っているが、ともに2割を越えている。

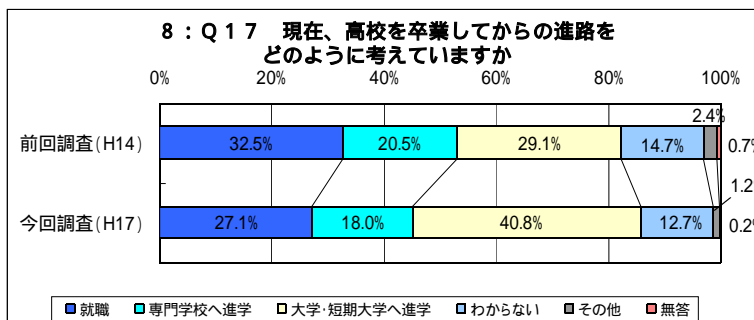
また、「やりたい部活動がある」の割合が大きく伸び、1割を超えている。「就きたい職業に必要な資格がとれる」割合は、ほとんど変化が見られない。

高校選択の理由は、「中学の時の成績」「通学に便利」が主な理由といえるが、「やりたい部活動」の伸び、「就きたい職業に必要な資格をとる」の比較的安定した割合から、適切な進路指導により目標を明確にした進路選択の生徒が徐々に増加しているといえる。

児童生徒 8 - 高校を卒業してからの進路をどのように考えていますか

高  
Q17

⇒ 「大学・短期大学へ進学」が大きく増加



前回、1/3近くを占めていた「就職」、2割を超えていた「専門学校」の割合がそれぞれ減少している。一方、「大学・短期大学へ進学」の割合が大きく増加し、全体の4割を超えている。

「大学・短期大学へ進学」の割合の増加要因として、就職に厳しい状況であることや職業を決めかねる生徒がいる一方で、比較的大学・短期大学に進学しやすい状況にあることなど、様々な要因が考えられる。

【参考】保護者10

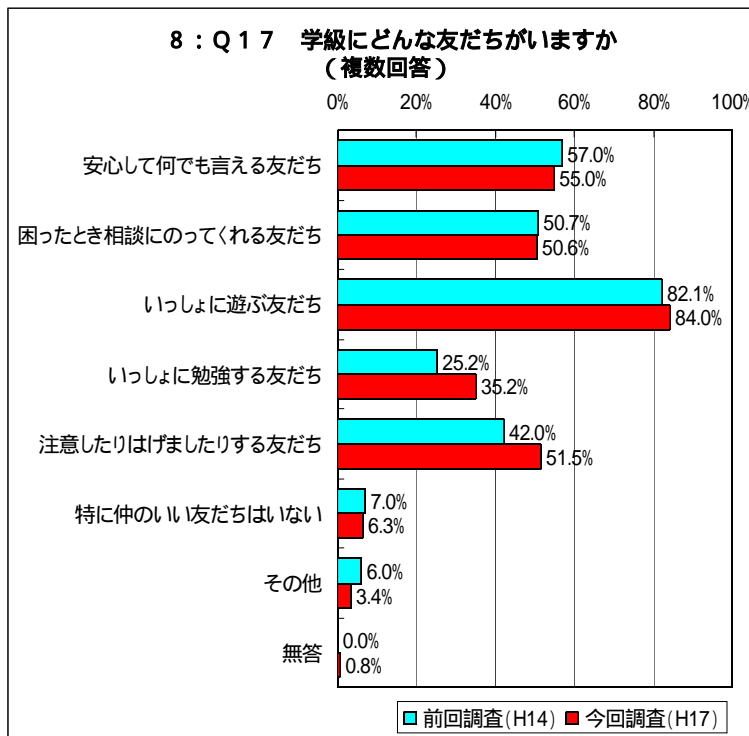
## 9 学級の友だちについて

児童生徒 9 学級にどんな友だちがいますか（複数回答）

⇒ 「いっしょに遊ぶ友だち」が  
7、8割を占める

小・中・高・盲聾養  
Q17・Q19・Q18・4

### 小学校



### 《小学校》

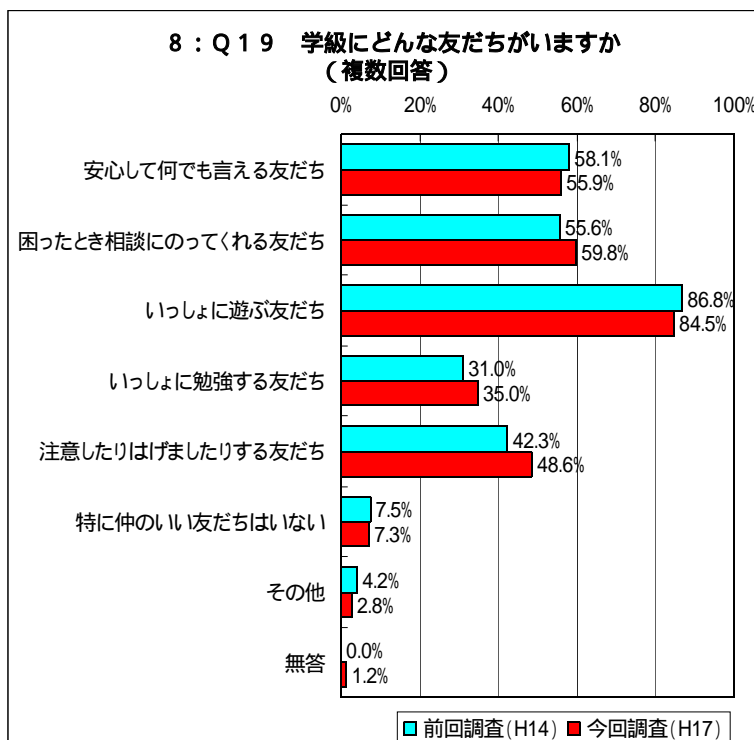
前回と同様に「いっしょに遊ぶ友だち」が、少し増加し、8割を超えて一番多い。

「安心して何でもいえる友だち」「困ったとき相談にのってくれる友だち」の割合も前回とほぼ変わらず、5割を超えている。「注意したりはげましたりする友だち」が前回より増加し、5割を超え、「いっしょに勉強する友だち」も増加している。

いっしょに遊ぶだけでなく、いっしょに勉強したり、また、注意したりはげましたりするなど、学級集団の中で学習したり生活したりしていく上で、望ましい友だち関係にあることがうかがえる。

【参考】担任 8

### 中学校



### 《中学校》

前回より、「いっしょに遊ぶ友だち」が、少し減少しているが、8割を超えて一番多い。

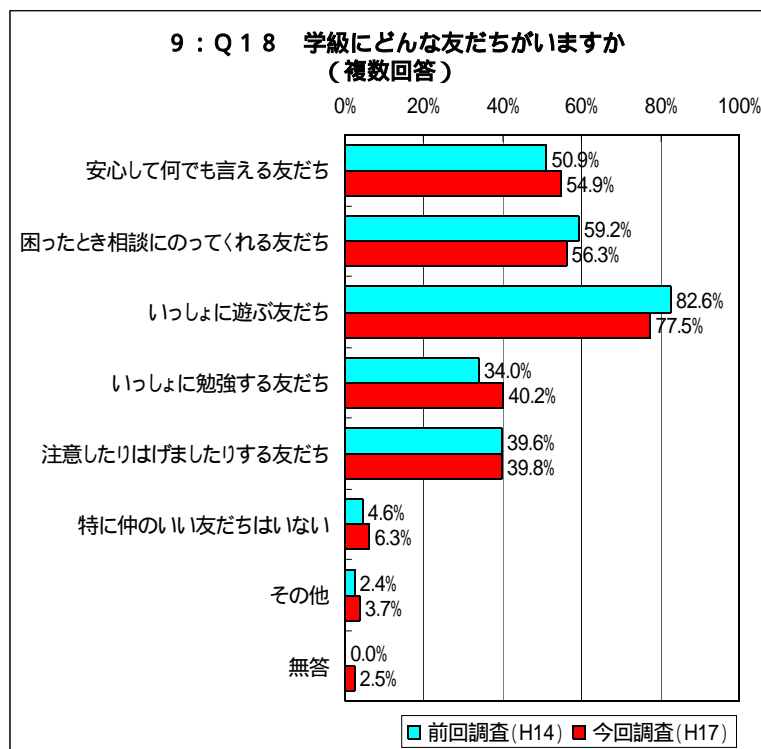
「安心して何でもいえる友だち」「困ったとき相談にのってくれる友だち」の割合も前回とあまり変わらず、5～6割を占めている。

「注意したりはげましたりする友だち」が前回より増加し、5割近くになっている。「いっしょに勉強する友だち」も増加している。

全体的に、小学生の結果に近い傾向がみられる。中学生の年代の特性からすると、「注意したりはげましたりする友だち」の増加は意外であるが、望ましい友だち関係にあることがうかがえる。

【参考】担任 8

## 高等学校



## 《高等学校》

前回より、「いっしょに遊ぶ友だち」が減少し、8割を下回っているが、選択肢の中で一番多い結果となっている。

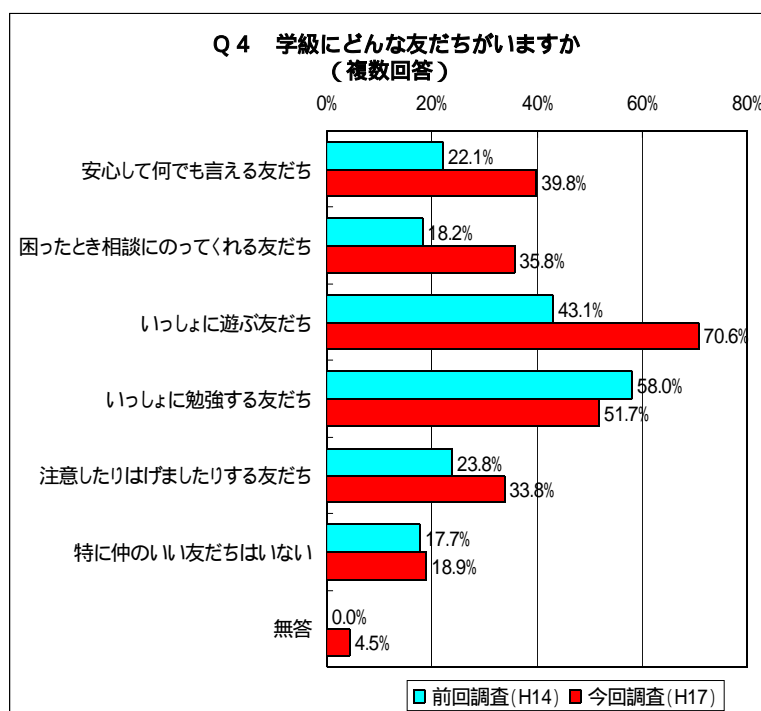
「安心して何でも言える友だち」「困ったとき相談にのってくれる友だち」の割合も前回とあまり変わらず、5割を超える程度である。

「いっしょに勉強する友だち」が増加し、4割を超えているが、「注意したりはげましたりする友だち」が前回と変わらず、4割を下回っている。

「注意したりはげましたりする友だち」の割合が、小学生、中学生よりも大きく下回っており、高校生の発達段階における微妙な友だち関係がうかがわれる。

【参考】担任 8

## 盲聾養護学校



## 《盲聾養護学校》

「いっしょに遊ぶ友だち」が、大きく増加し7割を超えたのを始め、選択肢の割合が一つを除き、増加している。

「安心して何でも言える友だち」「困ったとき相談にのってくれる友だち」の割合は、前回の2倍近い割合を占め、「注意したりはげましたりする友だち」も大きく増加している。一方、「いっしょに勉強する友だち」が減少している。

全体的に、前回より、学級の友だち関係がよい方向に変化していることがうかがわれるが、「仲のいい友だちはいない」割合が、他の校種より多いことから、日常指導において十分な配慮が求められる。

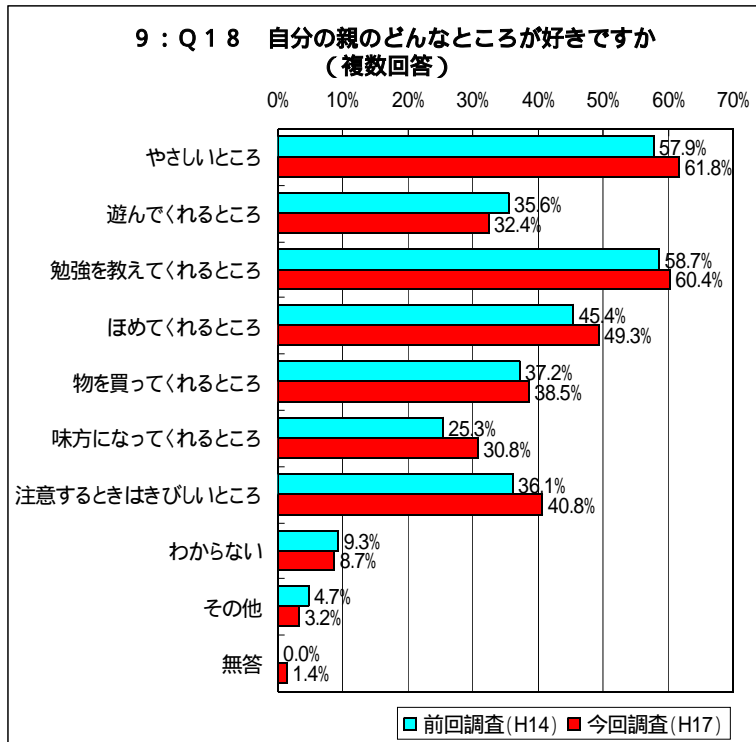
【参考】担任 8

## 10 自分の親について

児童生徒 10 自分の親のどんなところが好きですか（複数回答）

⇒ 小、盲聾養は「やさしいところ」 小・中・高・盲聾養  
中、高は「話し相手になってくれる」 Q18・Q20・Q19・ 5

### 小学校



### 《小学校》

「遊んでくれるところ」を除き、軒並み、前回より増加傾向にある。

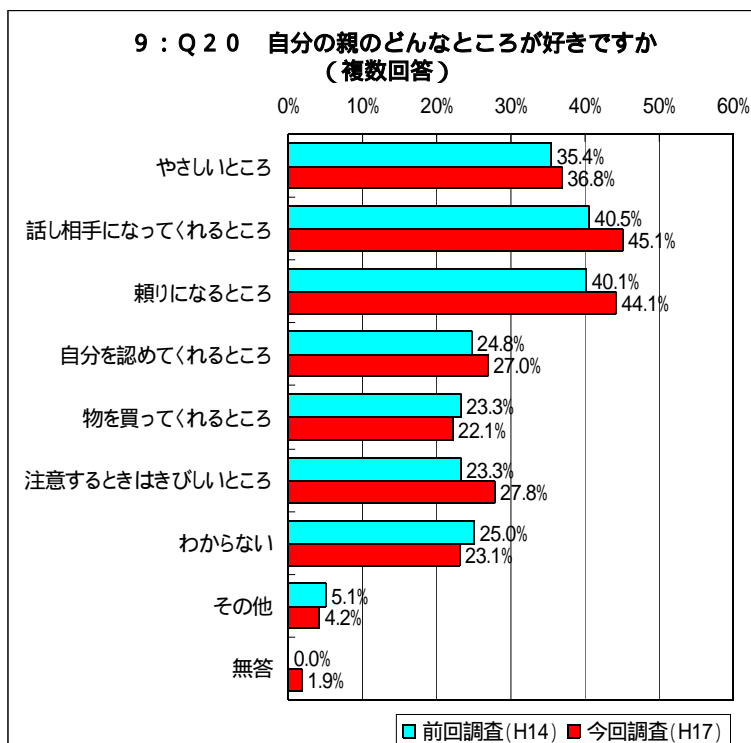
「やさしいところ」「勉強を教えてくれるところ」の割合が高く6割を超えている。

「ほめてくれる」「注意するときはきびしいところ」「味方になってくれるところ」の割合に、前回より伸びがみられ、「物を買ってくれるところ」も、やや増加している。

全体的に、前回より望ましい傾向がみられる。「遊んでくれるところ」の減少は残念であるが、「注意するときはきびしいところ」等親の態度をきちんと受け止めていることがうかがわれる。

【参考】保護者11

### 中学校



### 《中学校》

「話し相手になってくれるところ」「頼りになるところ」が前回より増加し、依然上位を占めている。小学生において6割を超える高い割合を示した「やさしいところ」は、前回より増加したが4割に満たない。「注意する時はきびしいところ」が増加し、前回より増加した「自分を認めてくれるところ」よりも上回っている。

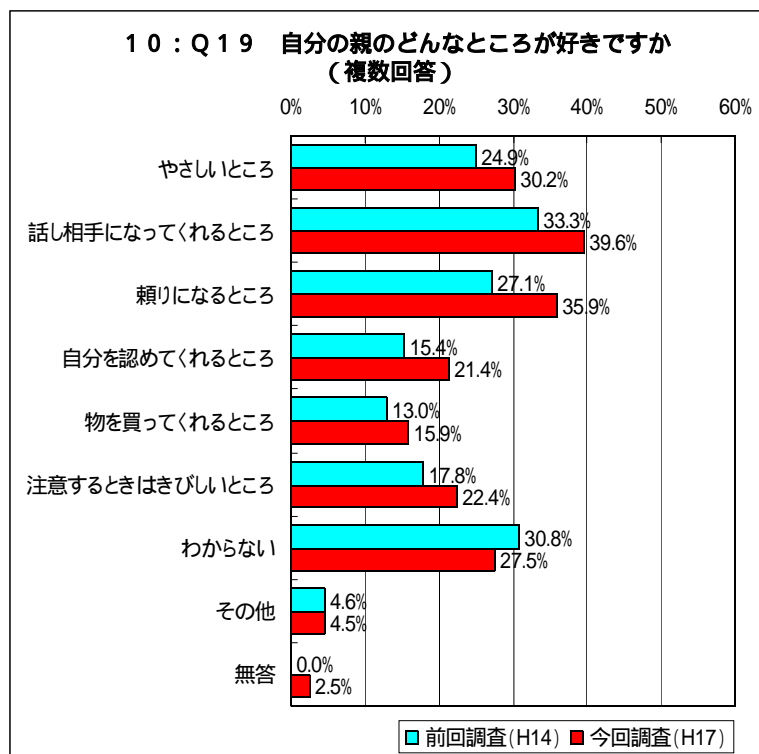
「わからない」が減少したものの2割を超えている。

親に対して、ものを買ってくれることよりも、自分を受け止めてくれたり支えてくれたり、時に厳しくしてほしいというような中学生の内面がうかがわれる。

【参考】保護者11



## 高等学校



## 《高等学校》

すべての選択肢の割合が前回より増加している。「話し相手になってくれるところ」、「頼りになるところ」が前回より大きく増加し、依然上位を占め、「やさしいところ」「自分を認めてくれるところ」も大きな伸びを示している。

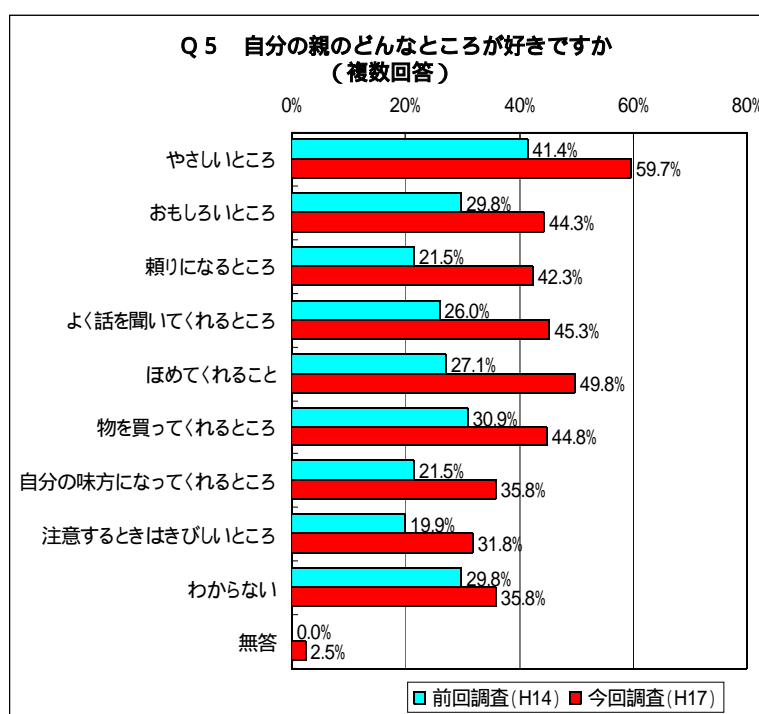
「注意する時はきびしいところ」も増加し2割を超えている。

「わからない」が減少したものの3割近い割合を示している。

全体的に、数値の割合は低いが、中学生の傾向と似ている。自分を認めて欲しい、受け止めてくれたり支えてほしい、また時には厳しくしてほしい、というような高校生の内面がうかがわれる。

【参考】保護者11

## 盲聾養護学校



## 《盲聾養護学校》

すべての選択肢において、前回より大きな増加がみられる。

「やさしいところ」は、6割近くを占め、「ほめてくれるところ」「よく話を聞いてくれるところ」等、五つの選択肢の割合が4割を超えている。

「わからない」割合も増加し、全体を1/3を超えている。

全体的に自分の親の様々な面や行動を好意的に受け止めていることがうかがえる。前回より親子関係が望ましい方向にあることがうかがわれる。

【参考】保護者11

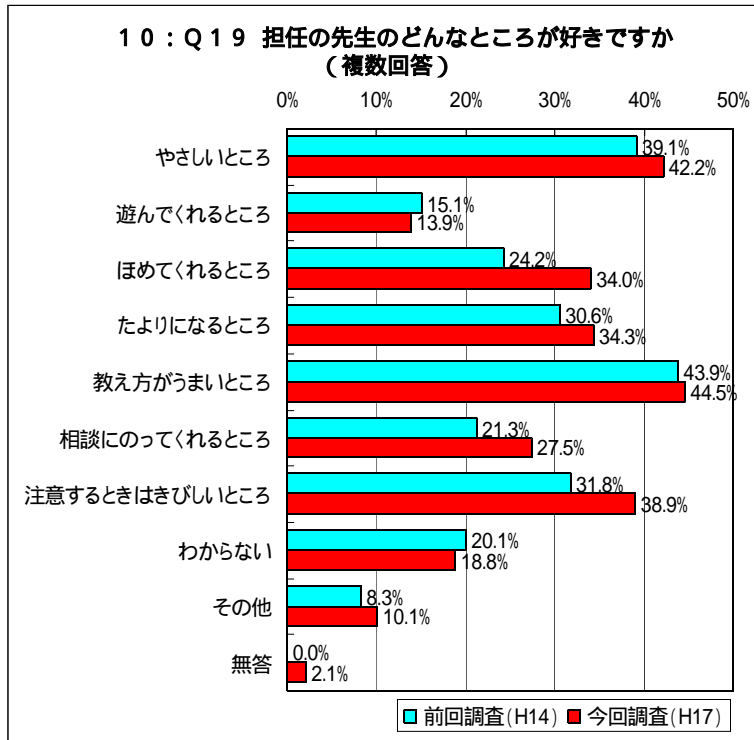
# 1 1 担任の先生について

児童生徒 1 1 担任の先生のどんなところが好きですか（複数回答）

小・中・高・盲聾養

⇒ 「教え方がうまい」、校種に大きな差 Q19・Q21・Q20・ 6

## 小学校



## 《小学校》

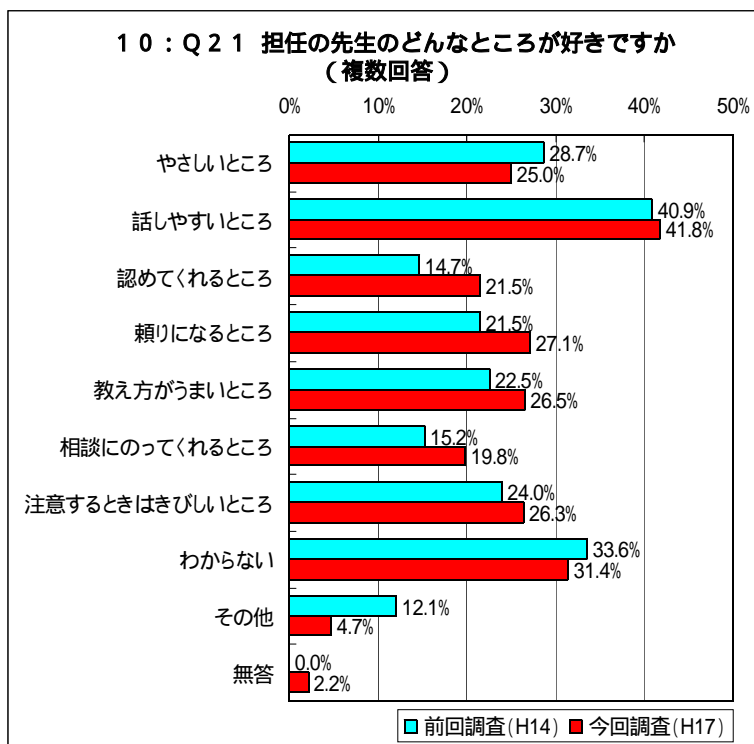
「教え方がうまい」「やさしいところ」が増加し、前回と同様に上位を占める。「注意するときはきびしいところ」「ほめてくれるところ」が4割に迫る勢いで増加し、「相談にのってくれるところ」も大きく増加している。

「遊んでくれるところ」が少し減少し、1割に近い割合となっている。

約半数に近い小学生が「教え方がうまい」と回答しており、日ごろの指導等が評価されているといえる。「やさしい」と「注意するときはきびしい」がともに4割近い数値であり、「ほめてくれる」の増加を踏まえるとバランスのよい指導が行われているものと思われる。

## 【参考】担任 9

## 中学校



## 《中学校》

「話しやすいところ」が前回より、やや増加し4割を超えている。

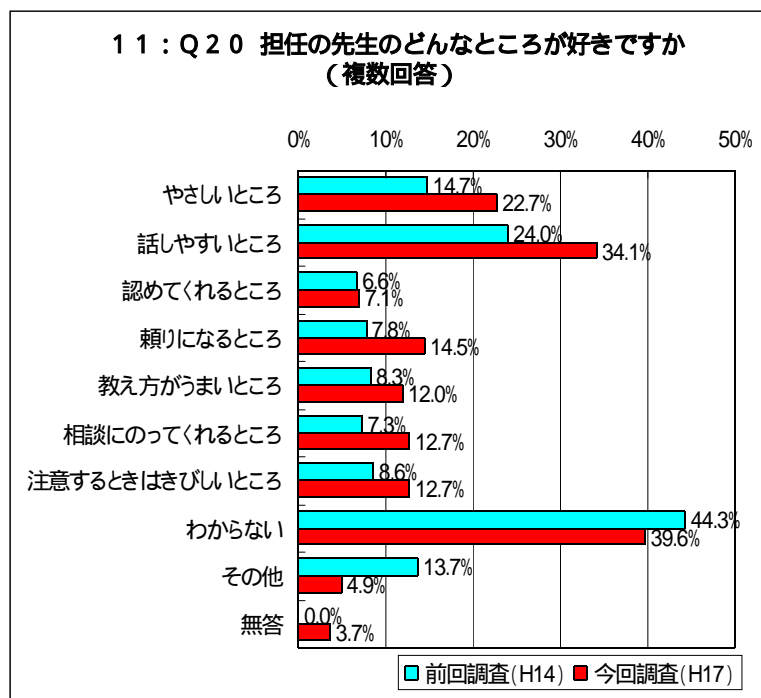
「やさしいところ」は、前回より減少しているが、「注意するところはきびしいところ」「頼りになるところ」等、他の選択肢は軒並み増加し、2～3割を占めている。

「わからない」が、前回より減少したが、依然3割を超えている。

前回より、全体的に各選択肢の割合が増加しており、望ましい方向にあるといえる。「認めてくれる」「頼りになる」「相談にのってくれる」など、生徒にとって身近で見守ってくれる存在として教師を受け止めていることがうかがわれる。

## 【参考】担任 9

## 高等学校



## 《高等学校》

どの選択肢の割合も前回より増加している。特に「話しやすいところ」が3割を超えたのを始め、「やさしいところ」が2割を超え、「頼りになるところ」「相談にのってくれるところ」等も1割を超えている。

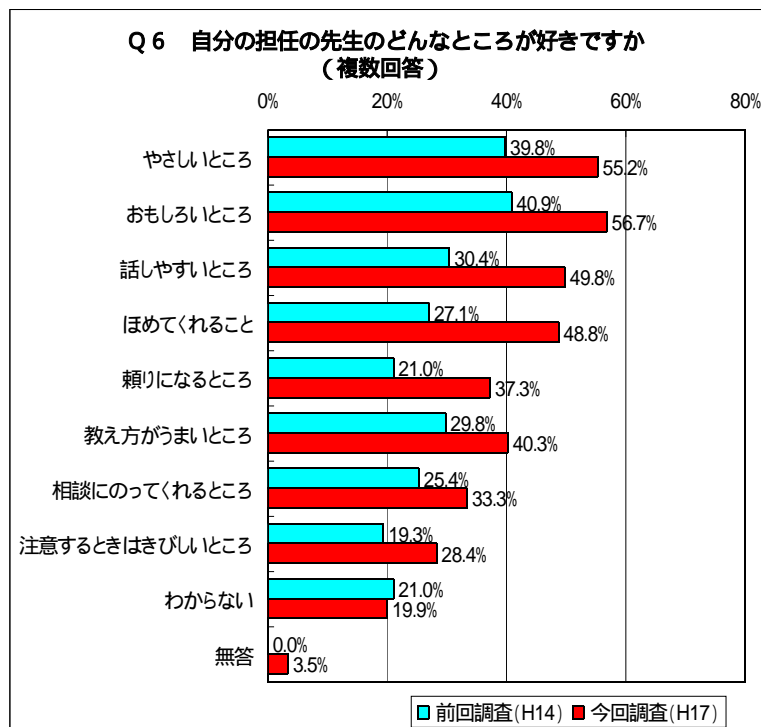
「わからない」が、前回より減少したものの4割近くを占めている。

前回より、望ましい方向にあるといえるが、全体的に、担任との具体的な関わりや指導等ではなく「話しやすさ」「やさしさ」といったゆるやかな関わりを期待している高校生の実状がうかがえる。

また、「わからない」の理由について、把握する必要がある。

【参考】担任 9

## 盲聾養護学校



## 《盲聾養護学校》

どの選択肢も、前回より大きく増加している。全体的な傾向も、前回と似ている。

「おもしろいところ」「やさしいところ」が5割を超え、「話しやすいところ」「ほめてくれるところ」が5割近くまで増加している。

選択肢の回答が、他校種より全体的に高い割合を示している。

学級担任の日常指導における工夫や配慮等の成果が表れているものと思われる。学級担任との良好なかかわりがうかがわれる。

【参考】担任 9

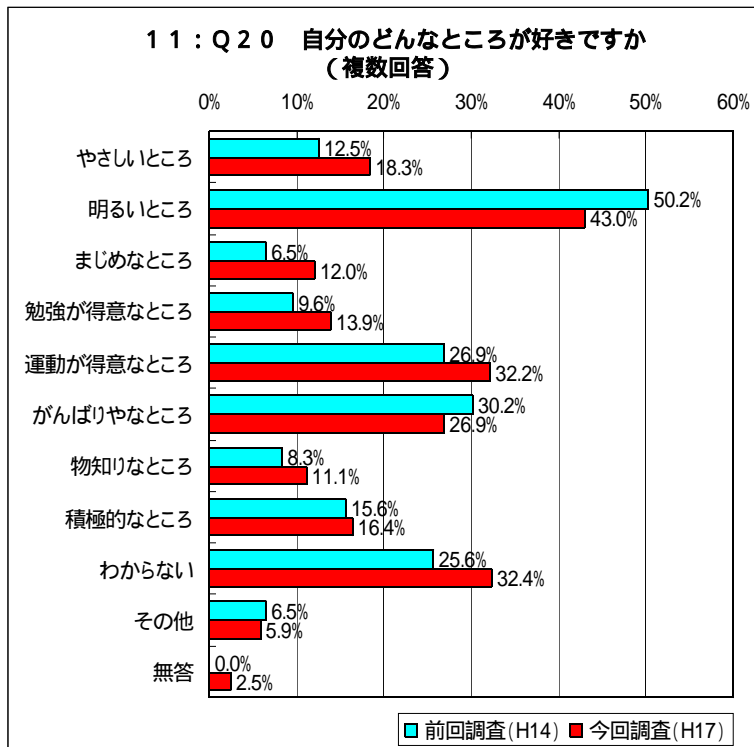
## 1 2 自分について

児童生徒 1 2 自分のどんなところが好きですか（複数回答）

⇒ どの校種も「明るいところ」一方、「わからない」も目立つ

小・中・高・盲聾養  
Q20・Q22・Q21・ 7

### 小学校



### 《小学校》

「明るいところ」が前回より減少したものの一番多い割合となっている。

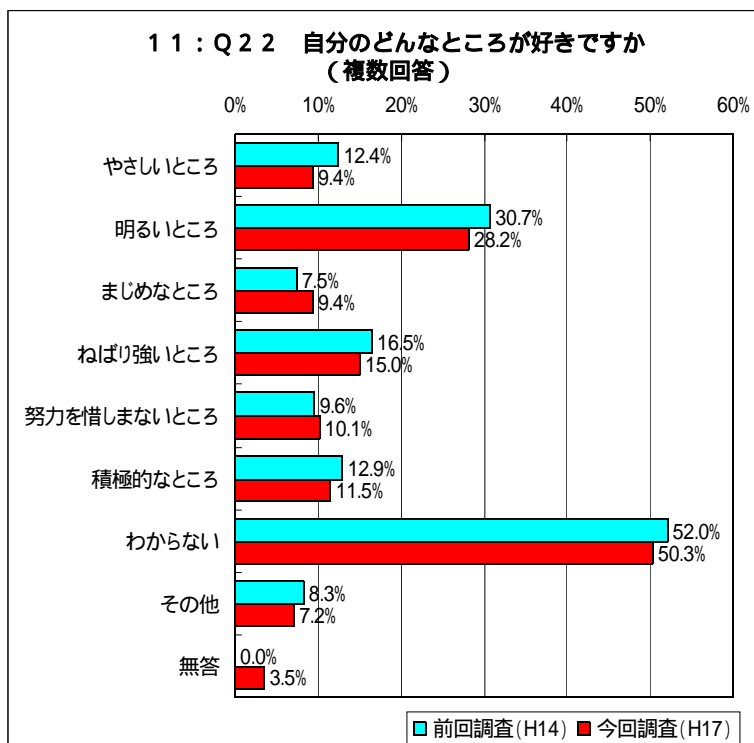
他の選択肢は、前回より軒並み増加しているが、「運動が得意なところ」が3割を超え、「がんばりやなところ」が続いている。

「わからないところ」が大きく増加し、全体の1/3近くを占めている。

前回と比べて「明るいところ」「がんばりやなところ」の減少は気になるが、やさしさがあり、運動や勉強にまじめに取り組む、というような小学生の姿がうかがえる。

【参考】保護者11、担任 8

### 中学校



### 《中学校》

「わからない」が前回より減少したものの半数を超えている。

「やさしいところ」が減少したのを始め、軒並み、各選択肢の割合が前回より減少している。

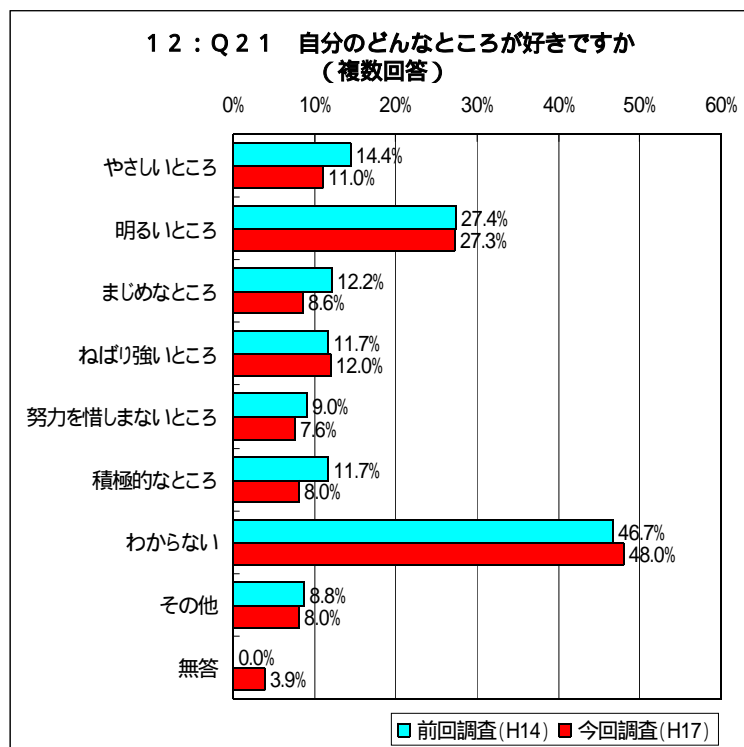
「明るいところ」が一番多く3割近くを占めるが、「ねばり強いところ」「積極的なところ」等、他の選択肢は1割前後である。

自分のよさがわからない、あるいは、気づかない中学生が増えていることがうかがえる。

前回と同程度の割合がみられる「わからない」の回答について、今後、その要因等をさらに調査することが求められる。

【参考】保護者11、担任 8

## 高等学校



## 《高等学校》

「わからない」が前回より増加し約半数を占めている。

「やさしいところ」「まじめなところ」を始め、軒並み各選択肢の割合が前回より減少している。

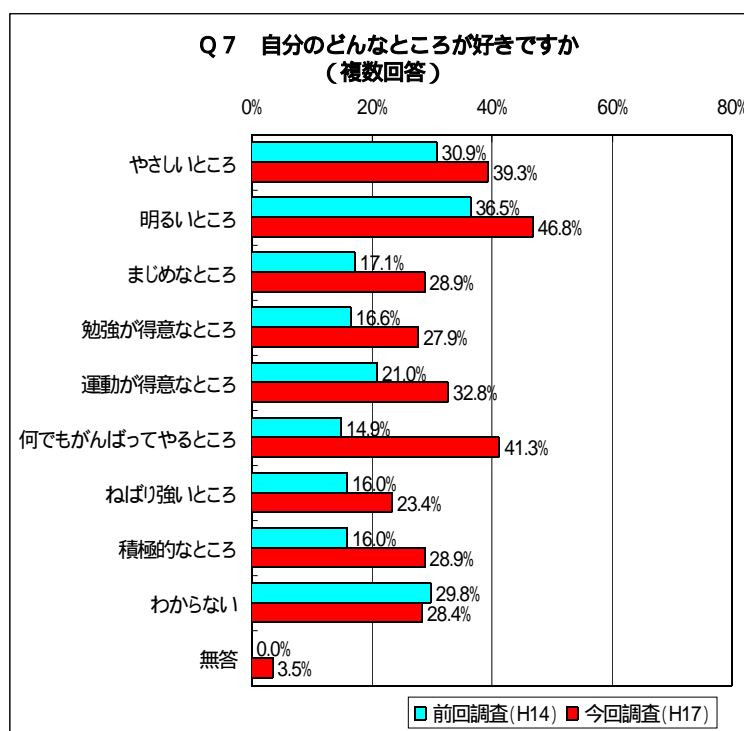
「明るいところ」が一番多く3割近くを占めるが、「まじめなところ」「努力を惜しまないところ」などの選択肢は1割を下回っている。

全体的な傾向が、中学生の結果の割合を低くした内容となっている。「明るいところ」を除く選択肢の回答の割合は、非常に少ない。

中学生の結果と同様に、前回と同程度の割合がみられる「わからない」の回答について、今後、その要因等をさらに調査することが求められる。

【参考】保護者11、担任8

## 盲聾養護学校



## 《盲聾養護学校》

どの選択肢の割合も、前回より大きく上回っている。

特に、「何でもがんばってやるところ」の増加が非常に大きい。

「明るいところ」「何でもがんばってやるところ」「やさしいところ」が約4割、他の項目も2～3割を示している。

全体的な傾向は、前回と似ているが、割合が大きく増加していることから、自分のよさを客観的にみつめ、前向きに評価していることがうかがえる。

【参考】保護者11、担任8

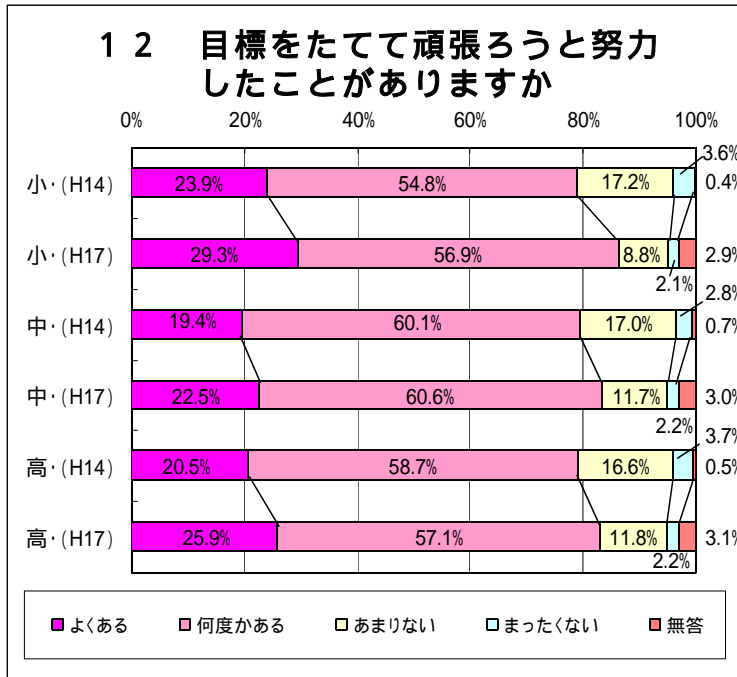
### 1 3 目標を立ててがんばること

児童生徒 1 3 目標を立ててがんばろうと、努力したことがありますか

小・中・高

Q21・Q23・Q22

⇒ 8割以上が「ある」と回答



肯定的な回答が、どの校種も前回より増加し、8割を超えている。

「よくある」の割合もすべての校種で増加しており、特に高校生の回答では、「何度かある」が前回よりやや減少しているが、それを上回る割合で「よくある」が増加している。

どの校種においても、児童生徒が目標を立てて頑張ろうとしている望ましい姿がうかがえる。

児童生徒が目標をもって取り組むことができるような日常の指導の成果が表れている。

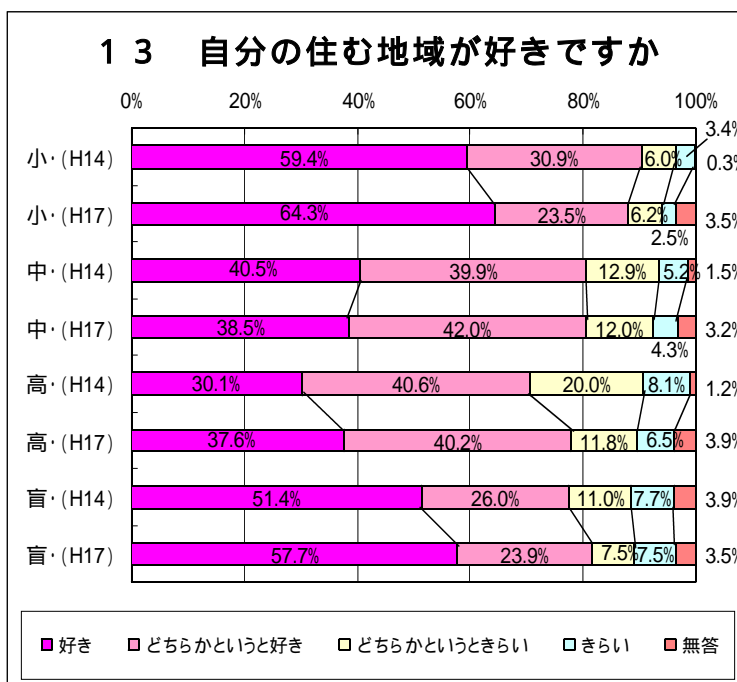
### 1 4 自分の住む地域について

児童生徒 1 4 自分の住んでいる地域が好きですか

小・中・高・盲聾養

Q22・Q24・Q23・8

⇒ 「好き」、小・盲聾養と中・高に差



小学生の肯定的な回答の割合が前回より少し減少しているが、どの校種の割合も約8～9割を占めている。小学生、盲聾養生徒では、肯定的な回答のうち「好き」の占める割合が約6割と、他の校種より高い。

中学生は、前回と似た傾向である。

全体的に、望ましい傾向にあるといえる。自分の住む地域に愛着を持つことができるように、今後、学校だけではなく地域等における取り組みや社会的な状況等とのかかわりにおいて、留意してみていく必要がある。